



亀中だより

No.37 卒業記念号

令和8年2月26日 文責 岡田



For The Students!

Congratulations on your graduation!

「石の上にも三年」

～あなたの中学校生活は？～

「石の上にも三年」中学生のみなさんなら、一度は聞いたことがあるでしょう。まずはこのことわざの意味を考えておきましょう。

意味としては、「たとえ辛い状況でも辛抱強く努力を続ければ、やがてよい結果が得られる」ということを表しています。「冷たい石の上でも、長く座っていればその石さえも温まる」という考えから、努力や忍耐の大切さを表しています。このことわざの「三年」は、具体的に三年間という期間を意味するわけではなく、「ある程度の長い時間」を比喩的に表したものです。そのため、「最低でも三年は続けるべき」などの使い方は誤りといえます。「辛抱すれば成功する」というポジティブな意味を持っていますが、無理に耐え続けることを推奨する根性論とは異なるわけです。



さて、そうとはいえ、この学校で三年間を過ごしたみなさんは、この長い期間の中で、辛抱強い努力を続けてきたでしょうか。またその結果として自ら望むものを手に入れたり、そんな姿になったりしたでしょうか。

大切なのは、単に我慢するのではなく、継続する中で学びや成長があるかどうかを見極めることです。もしかするとこのことわざは、今の時代にはマッチしないのかもしれませんが、継続することが大切とするならば、継続できる条件が必要です。そしてその一番はなんといってもその活動に“楽しさ”があるかどうかです。苦しくて、つらいことだけど、続けることに意味があるんだとするのは、もう正しいとは言えないようです。

結局、楽しむ人がうまいく。「頑張る」は「楽しむ」に勝てない!!



「何かを達成したら、ご褒美がもらえる」とか「失敗したら罰が待っている」といった動機付けは、活動そのものの楽しみや興味をもとにした、いわゆる“**内発的動機付け**”には絶対に勝てません。努力を努力とも感じずに、ただその活動が楽しいと思う人が、結果的にうまいくのでしょうか。リフティングがうまくなる人は、厳しい練習に耐えられる人ではなくて、ボールを扱う、ボールと遊ぶことが、誰より好き、楽しいと考えている人なのです。あなたはどんな気持ちで、何に取り組んでいきますか。

元メジャーリーガーで、昨年日本とアメリカの両方で「野球殿堂」入りを果たしたイチローさんはこう言います。「**“夢中”に勝る質の高いトレーニングはない**」

小学生のころ、わずかな休み時間であるにもかかわらず、1秒も惜しむかのようにグラウンドに駆け出して遊んでいましたよね。楽しくてたまらないから、自然に、そして夢中で走り続ける。こんな状態をいかにして作り出すか、それこそが超一流になる道だとか。好きなことを見つけたら、遠慮は必要ありません。夢中でそのことを楽しんでください。

いよいよ卒業ですね…。亀山中学校はこれからもみなさんを応援しています。卒業の日まであと7日…。(PS:3年生の卒業後も3月中に2回ほど学校だよりを出します。卒業式なども記述するので見てください)